



自然科学書の電子書籍化を

ノンフィクションライター 松浦晋也



略歴は 3 頁に掲載

電子書籍端末というものに初めて触れたのは、一九九九年の電子書籍コンソーシアムの実証実験の時だ。手に持てば重く、画面は暗く、動作は遅く、記憶媒体の容量は小さく、しかも購入手順は面倒——と、読書にたどり着くまでに根気が尽きてしまいそうな実験用端末だったが、それでも十分に「未来」を感じることができた。

それは技術の進歩を確信することでもあった。目の前にある貧弱な端末が、いつまでもそのままとすることはあり得ない。いずれディスプレイの表示品質は良くなる。プロセッサの動作速度は速くなるし、メモリーも記憶媒体も大容量化する。ムーアの法則がすべての問題を解決してくれる。そう考えたし、実際その

●●自然科学書協会に期待すること●●

通りになった。

すでに、ソフトウェアとしての電子書籍は一九九三年に登場したポイジャーの「エキスパンドブック」で、十分に以上に体験していた。自分は一九九〇年代を、パソコン、通信・放送関連分野の記者として過ごしたので、「パソコン上で本を読む」「パソコンで読む本を自分で作る」という経験は十分にしていた。後に残る課題は、寝つ転がって読める端末と、端末への本の販売ルートだと知っていた。電子書籍コンソーシアムの実験端末は、「端末と販売ルート」に解決の道筋を付けたようとしており、私は貧弱な仕様の端末の向こうに「端末で電子書籍を買って寝つ転がって読む未来」を確信したのである。

それから一七年が経った。今、自分の iPad の中には何種類もの事業者（電子書籍販売サイト）から購入した電子書籍が数百冊収まっている。最近では、本を買うにあたっては、まず「電子版はないか」と検索し、なかった場合にのみ紙の本を買うようになっていた。

理由の第一は「置く場所がない」だ。仕事場はすでに天井まである本棚が使える壁面をすべて占拠し、しかもどの棚もびっしりと本が詰まっている状態なので、なるべくもう本は増やしたくない。それ

でも本は読みたい。となれば、選択肢は図書館で借りるか、電子書籍かであり、いつまでも手元に置いておきたいれば電子書籍を買うしかない。本を分解してスキャンする「自炊」という手もあるが、本を分解し、データ化して紙を捨てるのは、かなり精神的に抵抗がある。最初から電子化されたものを入手したほうが気分がよい。

理由の第二は「老眼」だ。ご多分に漏れず五〇歳を過ぎるあたりからどんどん本を読むのがつらくなってしまった。私は極度の近眼なので、眼鏡を外して、思いきり目を近づけて読むしかない。電子書籍だと文字の大きさを変えることができるので、近眼も老眼も関係なしに読み進めることができる。

三つ目の理由は「検索性」だ。自分の本棚は図書館のように整理されているわけではない。確かに買って読んだ記憶があるのに、「あれ、どこだっけ」と本棚を探すことも稀ではない。あぐくに「えい面倒臭い」とオンライン書店でも一冊買ってしまふことも稀ではない。買った途端に見つかつて、二冊の同じ本を前に、自分の整理の悪さを嘆くこともある。これが電子書籍なら検索一発で探していた本にたどりつける。

電子データを「すぐに消えてしまうから」と忌避する方もおられるが、インターネット経由でさまざまな場所にバック

アップが置けるクラウド・ストレージの普及で、むしろ電子データのほうが消えにくくなっている。紙の本は、落としたり汚したり、破いたり焼いたりしてしまえばおしまいだ。だが、電子データは、必ずどこかにバックアップが残るようになった。たとえすべて失っても、電子書籍に版元品切れはない（版元が販売を停止することはあり得るが）。最悪でももう一度買い直せばいい。

もともと、「電子書籍の流通業者が倒産や廃業をしたら、手持ちの購入済みの電子書籍が読めなくなるのではないか」あるいは「電子書籍は『読む権利』を買っているであって、『データそのもの』を買っている」わけではない。権利が抹消されれば読めなくなるかも」など、電子書籍に関する不安はいくつもある（私はこれらの不安は杞憂であり、安心して現行の電子書籍を利用して良いと判断している。が、その理由は小文の趣旨からはずれるので割愛する）。が、その便利さ——「場所を取らず、読みやすく、読みたい時にすぐ出てくる」の魅力の前に私はほとんど電子書籍へのシフトを進めているのであった。

* * *

ここで本題の自然科学書についてだ。仕事柄、自然科学書や理工書を読む機会は大変に多い。が、悲しいのは、電子化

された自然科学書・理工書がほとんどないということだ。

書籍の電子化は、巻数の多いマンガにとつては多大な利点がある。読者は書籍を節約できるし、出版社は在庫を抱えるリスクを回避できる。このため、収益の多くをマンガに依存する大手出版社は、かなりの危機感とともに電子書籍に取り組んでおり、そのような出版社から出る自然科学書もまた、電子化が進んでいる。出版社によつては紙版と同時発売してくるので、私としては大変ありがたい。

が、自然科学書の出版を支えているのは、大手出版社だけではない。むしろ、中堅以下の中小出版社が粘り強く、部数が少なく収益の薄い本を出してくれているからこそ、日本語の自然科学書は今現在あるような多様性を維持できている。ところが、その中小出版社が、どうにも電子化から腰が引けているように思える。気持ちにはわかる。電子化にはその分の手間がかかる。ただでさえ少ないリソースで編集の現場を回しているのだから、余計な手間はかけたくないだろう。しかも、ノウハウもないゼロから始めるとなると、電子化はかなり辛い作業になるだろう。

そこまでして電子版を出したとしても、収益につながるかどうかはわからない。手間はかかり、カネにもならないとすれば、電子化から腰が引ける十分な理由と

なる。

が、それでも、私は電子化を強くお願いしたい。上に挙げた三つの理由は、読者の側のメリットだったが、電子出版には出版社側にとつてもメリットがあると考えられるからだ。

まず、版元品切れ、絶版がなくなる。これは、読者にとつてもメリットだが、出版社の側にとつては一度使ったデータを未永く販売することで一層の収益を見込めるということを意味する。「古い本をそんなに買う奴はいない」というのは真実ではあるが、それでも古書市場が成立していることからわかるように、どんなに古い本でも求める者はいる。求める者がいれば、そこに購買行動が発生し、収益を見込むことができる。当然、著者に還元することもできる。

そして、電子書籍市場は急拡大しつつある。インプレスの調べによれば、昨二〇一五年度の日本国内の電子書籍市場は一五八四億円、前年度比二五・一％増だった（ただし、その八割がマンガである）。これは、私の実感とも合致している。私の場合、数年前だと、電子書籍関連の印税は、時折数百円が振り込まれる程度だったのが、ここに来て数万円程度になっている。

現在の電子書籍は、マンガと実用書が主だ。だが、マンガと実用書が売れるということは、それだけ読書用の端末を保

有する人が増えているということでもある。自然科学書の愛読者だってマンガを読む。潜在的に、自然科学書の電子書籍市場における可能性は増大していると考えべきだ。

そして、主に自然科学系の教科書を発行している出版社には、学生はスマートフォン利用が当たり前になっているということを指摘したい。私はきちんと調べているわけではないのだが、彼らは重い教科書を持ち歩きたくないと思つてはるはずだ。若くて目の焦点調節機能に問題はないので、小さなスマートフォン画面でも無理なく教科書を読むことができる。となれば、教科書こそはほとんど電子化していくべきということになる。電子化が遅ければ、「共同で教科書を一冊だけ購入してスキャン。電子化したファイルをみんなで共有」という方法で、教科書を電子的に「万引」される可能性だってあるだろう（表に出ないだけで、実際に起きているかも知れない）。

* * *

これまでに購入し、読んだ本のうち、自分の仕事や人生にとつて有意義なのはほんの一部だ。一％もあればよいほうではないだろうか。ところが、その一％に出会うためには残る九九％をも読破しなくてはならない。効率良く一％だけを選んで読むというわけにはいかないのではあ

る。しかも、残る九九%だと思っていた本が、突如として一%入りすることも稀ではない。

これまでは、その一%の書籍に出会うために、残る九九%の本で書棚を埋めなくてはいけなかった。

電子書籍の出現で、私たちは生活空間を圧迫することなく、残る九九%を積み上げることが可能になった。私は、電子書籍の一番の価値は、この「一見無駄とも思える読書を、本棚の残りスペースを気にすることなくどんどんできるようになった」というところにあると考えている。

より一層の読書のために、一%のために九九%を心置きなく積み上げられるようになるために、自然科学書出版に携わる皆様には、自然科学書の電子化推進を切にお願いしたい。

◎執筆者略歴

宇宙作家クラブ会員。一九六二年東京都出身。慶應義塾大学理工学部機械工学科卒業。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。日経BPI社記者として宇宙開発の取材に従事。その他、メカニカル・エンジニアリング、パソコン、通信・放送分野などの取材経験を経た後、独立。宇宙開発、コンピュータ・通信、交通論などの分野で取材・執筆活動を行っている。『はやぶさ2の真実』（講談社現代新書）『恐るべき旅路』（朝日新聞出版）『スペースシャトルの落日』（ちくま文庫）『のりもの進化論』（太田出版）『コダワリ人のおもちゃ箱』（エックスナレッジ）など著書多数。

■六六期理事会・委員会開催一覧 (二〇一六年七月～一〇月)

●理事会

・七月二日（木）七月定例理事会／一五時三〇分～一六時五〇分 日本出版クラブ会館

・九月一日（木）九月定例理事会／一五時～一六時三〇分 日本出版クラブ会館

・一〇月二七日（木）一〇月定例理事会／一四時三〇分～一五時四五分 日本出版クラブ会館

●専門委員会

・七月一二日（火）七〇周年記念事業特別委員会記念会小委員会／一五時～一七時 文化産業信用組合

・七月一二日（水）著作・出版権委員会／一五時～一七時 日本出版クラブ会館

・七月二〇日（水）販売・出版委員会東京国際ブックフェア幹事会／一六時～一七時 日本出版クラブ会館

・八月三〇日（火）七〇周年記念事業特別委員会記念会小委員会／一四時～一五時三〇分 文化産業信用組合

・八月三〇日（火）七〇周年記念事業特別委員会記念会小委員会／一五時～一八時 文化産業信用組合

・九月八日（木）販売・出版委員会／一六時～一七時 文化産業信用組合

・九月三〇日（金）販売・出版委員会東京国際ブックフェア運営委員会／九時三〇分～一五時 文化産業信用組合

・九月三〇日（金）販売・出版委員会／一六時～一七時 文化産業信用組合

■事務局たより

〈代表者・当会代表者の変更〉

●株式会社 南山堂

旧代表者…鈴木 肇

新代表者…鈴木 幹太

●株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

旧代表者…若松 博

新代表者…金子 浩平

〈代表者の変更〉

●株式会社 文光堂

旧代表者…五十嵐 正雄

新代表者…浅井 麻紀

●株式会社 電気書院

旧代表者…田中 久米四郎

新代表者…田中 久喜

創立七〇周年記念会 開催のお知らせ

お陰様で当協会は一月二八日に創立七〇周年を迎えることとなりました。これもひとえに、皆様方のご支援・ご厚情の賜物と心より御礼申し上げます。

つきましては、例年年末懇親会を行っておりますが、本年は創立七〇周年記念会とし、日頃の感謝をこめ左記の通り開催したいと存じます。

なお、当日は関係官公庁はじめ関連団体代表者、および当会OBなど多数の方々をお招きし、相互交流をより一層深める会にしたいと思っております。ご多忙中のことは存じますが、是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

日時 平成二八年二月一日（木）

場所 日本出版クラブ会館

基調講演 一六時より

講師…高井昌史氏

（※紀伊國屋書店代表取締役会長兼社長）

内容…「自然科学書に期待すること」

式典 一六時四〇分より

祝賀会 一七時三〇分より



第六六期第一回定時総会の報告

七月二日(木)、午後五時から日本出版クラブ会館において開催した自然科学書協会第六六期第一回定時総会についてご報告いたします。

第六六期第一回定時総会は決算総会であり、その目的は前年度(第六五期)の事業報告並びに決算報告を審議しご承認いただくことですが、当協会是一般社団法人への移行途上にあるため、内閣府に対し公益目的支出計画実施報告書の提出が義務付けられております。したがって議案は、

第一号議案 第六五期事業報告書承認の件

第二号議案 第六五期収支決算書承認の件

第三号議案 公益目的支出計画実施報告書承認の件

となりました。

定刻の午後五時、司会担当の長理事が開会を宣言し、続いて定款に従い総会議長を金原理事長としたい旨、会場に諮ったところ異議無く、満場一致で承認されました。これにより、総会終了まで金原理事長が総会議長の任にあたりました。

第一号議案の審議にあたっては、まず南條副理事長が事業報告書の詳細な説明を行った後、総会議長が議決を諮り、第



第一回定時総会の模様

一号議案は満場一致で可決承認されました。次いで、第二号議案の審議に際し、総会議長は第三号議案との関連を考慮し、第二号議案と第三号議案を続けて説明するよう飯塚理事(総務委員長)に指示し、同理事が説明を行いました。続いて山本会計監事が監査報告を行い、これにより審議に必要な説明がすべて終わったので、議長は第二号議案及び第三号議案の承認を諮り、満場一致で可決承認されました。当日は皆様のご協力を得てすべての議案を滞りなく審議することができ、無事定時総会を終えることができました。これも自然科学書協会に対するご理解の賜物であると感謝し、紙面を借りて御礼申し上げます。次第です。

(総務委員会 飯塚尚彦)

梓会合同研修会「医書・jp」報告

六月二十四日(金) 一時〜一七時、日本出版クラブ会館・鳳凰の間にて、当協会および出版梓会の両研修委員会の共催による合同研修会「医書・jp」出版社による新たな配信・販売戦略」を開催いたしました。

「医書・jp」とは二〇一四年二月に医書出版社五社が中心となり設立された、医書ジェーピー株式会社(電子コンテンツ配信サービス)であり、今年六月より開始しております。本研修会では、その立ち上げに中心となつてご尽力された金原俊・医学書院副社長/医書ジェーピー株式会社取締役、その理念や現在の状況、将来の展望などお話をうかがいました。書籍コンテンツおよび販売経路のオンラ

イン展開は、自然科学書・文芸書を問わず出版社にとって大きな関心事であること、告知期間が比較的短期間だったにもかかわらず参加者は四五社、七五名にのぼる盛況となり、会場は満員、熱気に包まれました。

「医書・jp」は単なる配信事業にとどまらず、既存の外書店との連携や、販売先に応じた柔軟な料金設定など、ユニークかつ先進的な仕組みをいくつも用意しています。医学書以外の分野の出版社にとつても、参考になる点が多々あると思われました。講演後にも参加者からの質問が相次ぎ、予定時間を越えて質疑が続けられるなど、充実感あふれる研修会となりました。

講師の金原様、梓会事務局はじめ関係者の方々には深く感謝申し上げます。今後も皆様のお役に立てる研修会の企画に邁進してまいりたいと思います。

(研修委員会 朝倉誠造)

第三回東京国際ブックフェア

九月三日(金)から二五日(日)までの三日間、東京ビッグサイトにおいて「第三回東京国際ブックフェア」(TIBF二〇一六)が開催されました。本年より、読者謝恩、新規読者の開拓を目的に、秋季三日間開催に変更されました。



「医書.jp」のWebサイト
(<http://www.isho.jp/>)

当自然科学書協会は、例年と同じく三五小間のブーススペースにて展示販売を行いました。

書籍・雑誌の出品は、会員五八社（全六六社中）および一般二社の計六〇社、二八二四冊（昨年度二四六〇冊）と大幅に増えました。分野別の商品展示は例年同様ですが、レイアウトを一部変更し、入り口側テーブル三か所に特設展示コー



自然科学書協会ブースの様



ナーを集めたため、大いに賑わいました。特設展示は、一般読者を意識し、昨年好評だったテーマを発展させた「本からもったわかるうれしさ！できたよろこび！目で見るサイエンス」と題しました。また、七年目を迎えた図書カード抽選会、および各社ご提供のオリジナルノベルティを配布する来場者サービスを本年も実施しました。

当協会ブースでは、七四八冊、一八五万円を売上げ、二年連続で最高額を更新することができました。来場者数（主催者発表）は三日間で四〇五六四人（昨年は四日間で三七〇五九人）を数え、追い風になったと思われます。皆様のご協力により、無事に終えることができました。ありがとうございます。

なお、本年は秋篠宮殿下、妃殿下が当協会ブースに立ち寄られ、筑紫副理事長が応接されましたことをご報告申し上げます。

（販売・出展委員会 二村彰彰）

第三回北京国際図書展示会

第三回北京国際図書展示会（BIBF二〇一六）が、テーマ国を中欧・東欧一六か国として、八月二四日（水）から八月二八日（金）までの五日間、北京市「中国国際展覽センター」にて開催さ



会場の中国国際展覽センター

れました。

販売・出展委員会では、BIBFへの積極的な参加を会員社に促すため、今年で三年目となります。会員社一社につき一〇点まで一点一〇〇〇円の出品料の補助を実施いたしました。しかしながら、今年は一七社、一八四点の出品という結果となり、前年を大きく下回ってしまいました（前年：二二社、二二二点。マイナス五社、マイナス四九点）。これは、会員各社の著作権販売に対する考え方によるものと推察いたしますが、ご協力いただきました会員社各位にはこの場を借りてお礼申し上げます。

展示スペースは、昨年同様、当協会用の二ブースにメジカルビュー社で購入した一ブースを間仕切り一枚で合体させた変則三ブースといたしました。前述の通り、出品点数が減ったため昨年に比べ余

裕をもって出品商品を陳列することができました。

当協会ブースへの来場者は、初日は非常に多かったものの、時間が経過するにつれ徐々に減っていき、ビジネスデーの三日目は閑散とした状況でした。当協会専属の通訳さんが積極的に来場者に声を掛けてくださいましたが、来場者が昨年よりも少なかったこともあり、版權購入検討用見本の送付希望といった具体的なリクエストを受けた会員社数も、昨年の八社から三社へと激減してしまいました。

今回の結果を踏まえ、BIBFに今後どう取り組むべきかを当委員会として改めて検討しなければなりません。また、トーハン海外事業部様も今年の当協会の状況を重く受け止めており、来年の展示方法について新たな提案をしたい意向もあるため、それを伺いながら検討を進めていきたいと思います。

（販売・出展委員会 三澤 岳）



専門委員会第六五期活動報告・ 第六六期活動計画

●販売・出展委員会

第六五期（二〇一五年六月～二〇一六年五月）の活動は次の通りでした。

自然科学書フェア二〇一五を、大垣書店イオンモールKYOTO店をメイン会場に、大垣書店本店、イオンモール京都桂川店、フェレオ大津一里山店を小フェア会場として開催しました（二〇一五年六月三日～八月二日、メインテーマ「科学立国日本を支える自然科学書の力」）。国際土壌年の年でもあり、会員外の農業書出版社にも参加依頼し九社に参加いただきました。フェア全体で一三〇万円を越える売上となりました。

第二二回東京国際ブックフェア（TIBF二〇一五）を例年通り後援し、協会単独ブースで展開しました。「ビジネスにおすすみ 目でみるサイエンス」と題した特設コーナーを設けました（期日：二〇一五年七月一日（水）～七月四日（土）、会場：東京ビッグサイト、参加者数：六〇社、出品冊数：二四六〇冊、売上冊数：六七四冊、売上金額：一五七万二六三五円）。

海外のブックフェアについては、前年通りに北京国際図書展示会（BIBF二〇一五）、フランクフルトブックフェアに参加しました。

第六六期（二〇一六年六月～二〇一七年五月）の活動も例年通り実施しています。自然科学書フェア二〇一六は三省堂書店池袋本店にて、六月一日～六月三日まで実施しました（参加四五社、出品冊数：一三三九冊、売上冊数：四九八冊、売上金額：一二〇万三六五円）。第二三回東京国際ブックフェア（TIBF二〇一六、第二三回北京国際図書展示会（BIBF二〇一六）については、今号に報告記事が掲載されています。フランクフルトブックフェアは一〇月一九日～二三日に開催され、協会として参加しています。（委員長 池田和博）

●広報委員会

平素は広報委員会の事業にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。広報委員会の主たる事業は三つです。

一つ目の事業は、年四回発行する会報です。当協会の活動報告はもとより、業界時事や各方面の方々から当協会に対して期待することなどを寄稿いただき、会員各社の皆様に有益な情報を提供するとともに、外部の方に対しても当協会の活動内容などを伝えて行きたいと考えております。なお、バックナンバーは当協会ホームページに掲載しております。

二つ目の事業は自然科学書協会講演会です。今期は、当協会が本年一月二八日で創立七〇周年を迎えるにあたり、来

年五月に創立七〇周年記念講演会を予定しております。詳細が決まり次第お知らせいたしますのでどうぞ期待ください。三つ目は協会活動のPRです。ホームページや業界紙など、関係メディアに当協会の講演会やイベント告知を掲載していただき、多くの方々に活動内容や存在意義を周知していくことです。

なお、当協会に対するご意見やご要望等がございましたら、お気軽に事務局宛てにお寄せください。今後ともより一層の広報活動を行ってまいりますので、会員各社・関係各位のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。（委員長 吉野和浩）

●著作・出版権委員会

一、「無許諾スキャン事業」に対する当協会の見解

著作権者の許諾を得ずに出版物のスクランニングによる電子化を請け負うような無許諾スキャン業者に対して浅田次郎、大沢在昌、永井豪、林真理子、東野圭吾、弘兼憲史、武論尊の七名氏が提起した第二次訴訟は東京地裁判決、東京高裁判決ともに差止と損害賠償を認める判決が下されました。その後被告側から上告受理申し立てが行われていましたが、二〇一六年三月一六日に最高裁が上告不受理を決定し、原告側の全面勝訴が確定しました。

当委員会では、出版者著作権管理機構（JCOPY）から寄せられた特定の無許諾スキャン業者による被害状況を会員各社に通知して注意を促すとともに、「無許諾スキャン事業」に対する当協会の見解文章を策定し、理事会の決議をもって七月二九日付で自然科学書協会ホームページに掲載いたしました（8頁参照）。

二、出版者著作権管理機構の日本複写センター（JRRCC）からの退会

これまでにJCOPYは著作権者やその利用者に対して利便性の高い著作権管理機構の確立を目指しJRRCCに対して業務改善に関する申し入れを行ってきました。二〇一四年一月には具体的に次の六項目について申し入れ書を提出しました。①すべての権利者が委託できるような複数単価（指値）制を導入すること。②年間包括契約の料金は複製実態調査によつて決定すること。③権利委託者数の増加と直接委託・分配を促進すること。④利用契約者・年間利用料収入の増大を促進すること。⑤複数管理団体が存在している不都合を解消すること。⑥海外RROとの双務契約を締結すること。

これに対しJRRCCからは実現困難と内容の回答が寄せられました。この結果を受けてJCOPYは二〇一六年三月三〇日の理事会で、JRRCCから退会し、権利委託契約を解除することを決定しました。今後JCOPYは独立した運営を

行うこととなりましたが、J R R Cとの協力体制は引き続き継続されることとなりました。また、J C O P Yはこれを期に、海外の著作権管理団体との契約業務を進めています。

三、著作物の教育目的利用における権利制限

現在、文化庁の法制・基本問題小委員会において、教育目的に著作物の電子的複製を行い、サーバー等に蓄積し異時送信することについての著作権法上の対応が検討されています。このような対応はいつでも（異時的に）または誰にでも電子的複製物が利用できるようにすることにつながる可能性があります。現在対象となる著作物の範囲やライセンス、保証等について議論されている状況ですが、今年度末までに具体的な内容が示されると考えられています。（委員長 梅澤俊彦）

●研修委員会

当委員会は、会員各社のお役に立つ研修会・勉強会や、一般読者を対象とした「サイエンスカフェ」等の開催を通して、自然科学書出版の発展に寄与することをめざしております。

第六五期には、平成二七年六月二〇日（土）に大垣書店との共催で「土壌と私たち―土の声を聴け―」（講師・矢内純太「京都府立大学教授」、また七月四日（土）に三省堂書店との共催で「スポー

ツを脳科学する」（講師・荒巻 勇「中京大学教授」、七月二五日（日）に大垣書店との共催で『生まれ変わる動物園』その後」（講師・田中正行「京都市動物園研究員」）と題したサイエンスカフェを計三回開催いたしました。

今期に入りまして、平成二八年六月一日（土）に「気候変動リスクと人類の選択―地球温暖化で世界はどう変わるか―」（講師・江守正多「国立環境研究所主任研究員」、六月二五日（土）に「土砂災害と防災教育―生きる力」を身につける―」（講師・今村隆正「防災地理調査取締役」）なるサイエンスカフェを、いずれも三省堂書店との共催で開催いたしました。

また、六月二四日（金）には出版協会研修委員会との共催による合同研修会「医書・j p―出版社による新たな配信・販売戦略―」（講師・金原俊「医書ジェーピー株式会社取締役」）を開催、四五社・七五名という参加者を得ました。

今期後半の予定は未定ですが、引き続き委員の皆様との協議を重ねつつ、活発に企画を立ててまいりたいと思います。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

（委員長 朝倉誠造）

●総務委員会

第六六期第一回総会にご協力賜り誠にありがとうございました。当初は第六五

期をもって一般社団法人への移行を完了させる予定でした。しかし、先の定時総会でもご説明したとおり、「公益目的財産額がゼロまたは赤字」という移行の為の条件を満たすことができず、理事会において移行期間の一年間延長を決め、総会に諮り、ご承認いただいた次第です。総会での承認を受け、早速内閣府に移行期間の延長を申請し、過日、一年間の延長の承認が得られました。総務委員会では第六六期をもって一般社団法人への移行を完了すべく鋭意努力いたします。

また、これまでは「一般社団法人への移行」に不可欠な赤字公益事業の実施を優先してまいりましたが、移行完了が射程に入ったことを受け、これまで優先順位を下げてきた事務局のOA機器の更新を順次行います。まずは、OSのサポートが二〇一七年四月に切れるパソコンを更新します。OA機器の更新は、安定した事務局機能の担保を第一に、優先順位をつけて実施する予定でありますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

（委員長 飯塚尚彦）

●税制・再販流通特別委員会

本委員会は、二〇一四年四月一日からの消費税率の引き上げにともない、「消費税税率変更に伴う経過措置」等への対応も含め、書店店頭における運用が適切に行われるよう書協その他関連団体と連携

して対応するために設立されました。

二〇一四年四月一日の消費税引き上げに際しては、出版物への総額表示義務が免除される特別措置、定期的に発行される新聞または雑誌で旧税率の適用期間等の経過措置から雑誌を除外することができたことで、雑誌も書籍と同様すべて単一消費税率（八％）での販売となるなど大きな混乱もなく対応することができました。ただ、予約販売による雑誌等の定期購読については、経過措置をすべての予約販売契約に適用するという要望は見送りとなりました。

その後、二〇一五年一〇月一日に予定されていた消費税率一〇％への引き上げは再々先送りされ二〇一九年一〇月からとされましたが、出版業界にとつてさらなる売上縮小となる危険性を孕んでいるため、繰り下げ期間を活かし書協を筆頭に出版業界を挙げて軽減税率適用を求めているところです。ただし、この軽減税率適用問題もその是非、運用上の問題点、仕入消費税の転嫁問題も含めて慎重かつ適切に判断したいと考えております。

また、次の引き上げに際しては、再販制度が関わる商品定価表示や年間購読など出版物固有の課題が依然としてあることから、前回八％移行時の経験を基に、今から二〇一九年一〇月に向けて準備をしておかなければならないと考えているところです。

（委員長 伊藤富士男）

出版平和堂功労者顕彰会

一〇月七日（金）正午より、神奈川県箱根町芦ノ湖畔にある出版平和堂にて、第四八回出版功労者顕彰会が執り行われました。

出版平和堂は、昨年の大規模な外装の修繕に続き、本年も入口開口扉の交換・床石張替・天井部のステンドグラス清掃など、大規模な修繕により、さらに明るいお堂に生まれ変わっております。



修繕された出版平和堂（神奈川県箱根町）



当日は好天に恵まれた式典となり、維持団体である当協会からは、金原理事長が出席されました。自然科学書協会の会員社の新顕彰者は左記の通りです。

浅井宏祐様（文光堂）

太田 博様（杏林書院）

第一部は各維持団体の代表者による挨拶・新顕彰者（版元関係八名・書店関係二名）の奉告、献詞に続き、献花が行われました。

第二部は箱根ホテルに移動し、顕彰者の方々への敬意と感謝の念を込めて献杯をし、ご遺族・関係者の方々との懇親の場となり、式典は滞りなく閉会となりました。

（広報委員長 吉野和造）

第一〇二回全国図書館大会

一〇月一六日（日）、第一〇二回全国図書館大会東京大会が青山学院大学で開催されました。

第八分科会 出版流通「転換期の出版界と図書館との連携・協力」では、当協会の立場を代表してオーム社の村上和夫社長がパネルディスカッションに登壇され、満員の聴衆を前に、専門書出版の現状と図書館との関わりについて熱く語られました。

なお、基調報告は有斐閣の江草貞治社長が行いました。

（副理事長 南條光章）

編集後記

二〇一六年は「VR元年」だという。VR（仮想現実）くらいは知っているが、AR（拡張現実）にMR（複合現実）、さらにSR（代替現実）ときては、ん？



HMD（ヘッドマウントディスプレイ）を装着中の息子に教えるを乞うのも癪なので、ネットでこれらの略語を検索すると「AI進化のロードマップ」なるものを見つけた。これによると、二〇三〇年代初めには脳の全機能を詳細に理解できるようになり（脳スキャン）、二〇四五年には人工知能が人間の知能を超える技術的特異点（テクノロジカル・シンギュラリティ）を迎えるのだとか。そうなると、人間が脳を直接コンピュータに接続し、生物としての限界を超えることができるらしい。昔読んだSFに出てくる「直接接続者」はエリート中のエリートだったけれど、三〇年後、自然科学書協会が一〇〇周年を迎える頃には、だれでも直接接続者”というか、だれもが「接続（アップロード）」される時代がやってくる？



ぶるるっ、寒さ厳しき折、風邪など召しませぬようご自愛ください。

（A・T）

二〇一六年七月二九日

「無許諾スキャン事業」に対する当協会の見解

一般社団法人 自然科学書協会

一般社団法人 自然科学書協会は、事業者が無許諾で行うスキャン代行行為は著作権法に規定される「私的使用のための複製」には該当しない違法な複製行為であり、著作者、著作権者、出版者の権利や利益を侵害するものであると認識しております。

当協会はそのようなスキャン代行行為には反対し、即刻中止することを求める立場ではありますが、読者の利便性を考慮すると、事業者が権利者や出版者等と複製に係る利用許諾契約を締結する場合はその限りではないと考えます。かかる事業者は複製行為を継続して行う場合、権利者や出版者、あるいは著作権等の管理団体との間で権利侵害が生じない内容で利用許諾契約を締結することを求めるものであります。

なお、事業者が許諾を得ることなくかかる違法複製行為を継続して行う場合、当協会は権利者と連携し、法的な対応を取ることも視野に入れて検討する意向であることを表明します。